T2R2 東京科学大学 リサーチリポジトリ
Science Tokyo Research Repository

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	現代日本の住宅作品における建築と敷地の図形的対応関係
Title(English)	
著者(和文)	遠藤康一
Author(English)	Koichi Endo
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:乙第4139号, 授与年月日:2017年3月31日, 学位の種別:論文博士, 審査員:奥山 信一,安田 幸一,塚本 由晴,山崎 鯛介,村田 涼
Citation(English)	Degree:Doctor (Engineering), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:乙第4139号, Conferred date:2017/3/31, Degree Type:Thesis doctor, Examiner:,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	論文要旨
Type(English)	Summary

Powered by T2R2 (Science Tokyo Research Repository)

（論文博士）

論　文　要　旨　（和文2000字程度）

報告番号	乙 第　　号	氏　名	遠藤　康一

（ 要　旨 ）

本論文は、現代日本の住宅作品を対象に、建築と敷地の対応関係を図形的な水準において検討することにより、建築と建築外の要素としての敷地との間に形成される一体的な関係とその性格を建築の形式的側面から明らかにするものである。

建築には、その成立の前提となる条件として敷地が存在し、敷地は周囲に広がる様々な立地条件という環境下に置かれている。これらは建築の形態を規定する条件として、あるいは参照対象として、様々な水準で建築の設計に関わるのみならず、実体としての建築との対応関係を伴うことにより、建築固有の空間や形態との構成関係を形成し、建築と一体的に認識し得る対象となると考えられる。なかでも、敷地に関する物理的条件（以下、敷地）は、建築設計の原初における基本条件であり、形態の決定に大きく関わる建築近傍の条件といえ、古くからその対応が建築の空間表現において主題となっている事例をみることができる。さらに、我が国の現代建築、とりわけ住宅においては、起伏に富む限られた国土に住宅地などの都市的環境が形成されてきたことを背景とした、地形の多様さや歪な形状の敷地、密集市街地における狭小敷地などといった環境下にあって、建築と敷地との間にはより緊密な対応関係を伴うことから、敷地が、建築のデザインの決定における第一義的な因子となり、様々な意匠表現と結びつく枠組みが現代日本の住宅作品特有のものとして成立していると考えられる。

本論文では、こうした現代日本の住宅作品における建築と敷地の対応関係を、建築のかたちの水準において検討を行う。これまでの研究において敷地は、建築のヴォリューム構成や配置、外部空間といった建築の外部および外形の構成を検討する上で前提となる与条件として扱われてきたといえるが、より直接的な建築本体との拮抗において、敷地は、外的な要素として建築の形態の操作レベルに働きかけ、平面形状や地形といった固有の条件に対する物理的なおさまりや、街路に面したかまえなど、建築との相補的な関係を取り結ぶことによって、建築それ自体の形態や構成を特徴づける意匠表現の成立に関わっていると考えられる。

一方、建築においてかたちとは、一般的には、建築が、物質的材料によって形象が与えられた視覚に訴える造形芸術としての側面を基底にもちながら、必ずしも目に見えるかたちそれ自体の問題に限定されない、様々な意匠的概念を包含するものであり、かたち、造形、形態、形象といった関連することばの広がりと共に、これまでにも建築のかたちそれ自体に関する統辞的側面や意味作用に関する考察や分析が展開されてきてきた。それらを受けて、本論文では、まず、建築の領域を水平方向において規定する敷地境界と鉛直方向において規定する地面を敷地の基本要素として抽出し、それらと建築との対応関係を図形的な水準で捉える。敷地境界に関しては建築の平面の図形との、地面に関しては立面および断面の図形との関係といった、様々な敷地の形状や地形、狭小敷地

といった現代日本の戸建て住宅に特有の敷地の状況と建築との物理的な関係が顕著に表れると考えられる側面に着目している。そして、その各側面において、平面と立面においてはその外形を図形として捉えることから、それぞれ敷地境界と平面の図形どうしの幾何学的な対応関係、立面の図形的な特徴と共に地面との接続に関係する建築の要素の関係を含めた形態の検討による対応関係が、また内部空間および地面と建築ヴォリュームとの関係が表れる断面においては、内部の室、および地面と建築ヴォリュームの外形断面といった要素の組合せと配列による空間構成を表す断面の図形の検討から対応関係が捉えられると考えられる。こうして捉えられる関係は、敷地という建築外の要素との関係において顕在化される建築のかたちの一断面であり、3次元の奥行きをもった現実の建築の空間構成を構想する上でも、多くの場合、考慮され得る関係といえる。

そこで本論文では、敷地を建築の構成に作用する外的な要素として能動的に捉え、建築の図形との間に一体的に取り結ばれる物理的関係を対応関係と定義し、各々の検討水準において、関係図式の類型を抽出している。具体的には、第２章「敷地境界との関係にみる住宅作品の平面輪郭」において、敷地境界と建築の平面の図形との対応関係を、第３章「住宅作品における立面の接地性」および第４章「傾斜地における住宅作品の断面構成」において、地面と建築の立面および断面の図形との対応関係を検討し、さらに、５章「建築と敷地の図形的対応関係」において、２章～４章で得られた類型について、敷地の物理的な特性に対する適合性の観点から分類すると共に、類型間に共通する性格を考察することを通して、現代日本の住宅作品における建築と敷地の図形的な対応関係の枠組みを明らかにすることを試みている。

その結果、敷地の物理的な特性に対する適合性の分類として、同調、対置、相対化といった性格を導くと共に、各分類に位置づく類型間に共通する性格として、類型の主調を形成する水準の組合せによって敷地に対する対応関係が決定される一意的となるあり方と、部分の対応が重なることにより適合性に関する性格が強調されるあり方、適合性に関する性格が調整されるあり方といった性格を明らかにした。これより、現代日本の住宅作品において、同調と対置を両極としつつ、部分の対応の重なりによって特徴づけられる建築と敷地の図形的対応関係の枠組みが成立していることを示すものと考えられる。

備考：論文要旨は、和文2000字と英文300語を1部ずつ提出するか、もしくは英文800語を1部提出してください。
Note：Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1copy of 800 Words (English).
注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。
Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).

（論文博士）

論　文　要　旨（英文）　（300語程度）

（Summary）

報告番号	乙 第　　号	氏　名	遠藤　康一

（要　旨）

The aim of this thesis is to clarify the formal aspect of the architecture formed by the relationship between the building and elements outside the building by examining the correspondence relationship between the site and the form of the building for the contemporary Japanese houses.

There is a site as a precondition for the establishment of the building. The site is concerned with the design of the building at various levels as a condition for defining the form of architecture or for reference. In addition, it is thought that by forming a correspondence relationship with the architecture as the entity, it forms a composition with the space and form unique to the architecture, which can be recognized as an integral part of the architecture. And especially in contemporary Japanese houses, which is built in places such as the urban environment where the buildings are densely built or the detached housing area where the narrowing of the site progresses, the physical condition of the site is one of the primary point in determining the design of the building.

In this thesis, the correspondence between such sites and buildings is examined by the relationship between the elements of the building and the tangible elements on the outside of the building, or the relationship with elements outside the building which relatively emerge by arranging building elements.

Specifically, in each chapter, the relationship between the boundary of site and the outline of plan and the relationship between the ground and façade or section of the building are examined, and the types are extracted in each. Furthermore, by classifying those types from the viewpoint of compatibility with the physical characteristics of the site and simultaneously considering the common character among the types, it is clarified the framework of the correspondence relationship between the site and the form of the building in contemporary Japanese houses.

備考：論文要旨は、和文2000字と英文300語を1部ずつ提出するか、もしくは英文800語を1部提出してください。

Note：Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).